

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成 15年 6月 9日記入

基本目標	Ⅲ ▼ 躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	31520
政策名 (章)	第1章 立地特性を生かした産業の振興をめざします	評価担当課	経済部 ▼
基本施策名 (節名)	第5節 都市農業の振興		農政課
施策名	特色ある都市農業の推進	課長名	西丸三千則

1 施策の概要・目的

人口61万人を有する都市のなかで展開するという農業環境を理解し、地域特性を生かした施策を講じる。また、市民が農業者と触れ合える場を提供することにより、本市農業に対する理解を深め、地産地消の促進を図る。

2 施策の現状

農地と住宅が近接するという農業環境の中で、相互理解のもと都市農業を推進していくため、農薬の使用を減少させていく環境保全型農業の導入支援を行う。また、61万市民に本市の農業を深く理解してもらうため、朝市、農業まつり、農業めぐり等の施策を実施している。さらに、市民と農のふれあいの場としての市民農園、農業公園等の施策を実施している。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

28,999 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

47 円/人……人口は、61.6 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 103 番目です。

(4) 施策に要している人員

2.07 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	市民農園整備率 現状の区画数 ÷ 目標区画数 × 100	全ての市民農園利用希望者が利用できるよう増設を行う。	現状	4,299 区画 単位	0 50 100	目標年度
			目標	5,000 区画 単位		達成度 86%
指標2			現状	単位	0 50 100	目標年度
			目標	単位		達成度 %
指標3			現状	単位	0 50 100	目標年度
			目標	単位		達成度 %

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

食の安全・安心に対する市民意識が高まっている中、農薬の使用を抑制し環境に調和した環境保全型農業の導入は必要不可欠なものとなってきている。さらに、食農教育の必要性を鑑み、小学校5・6年生を対象とした実際の農業体験学習により、食糧の大切さや農業の重要性についての教育を実践している。また、余暇、レクリエーション活動の一環として、市民農園を整備し、市民の家庭菜園ニーズに対応している。

6 有効性…期待される効果があがっているか

環境保全型農業を導入する農家が増加してきている。また、朝市や農業まつりを実施することにより、地場産の新鮮な農畜産物を市民に供給している。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

市民農園については現在4,299区画の設置、朝市来場者数約10,000人、農業まつり来場者43,500人、農業体験学習参加者100人で、延べ57,899人の市民に農とのふれあいを体験してもらっている。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

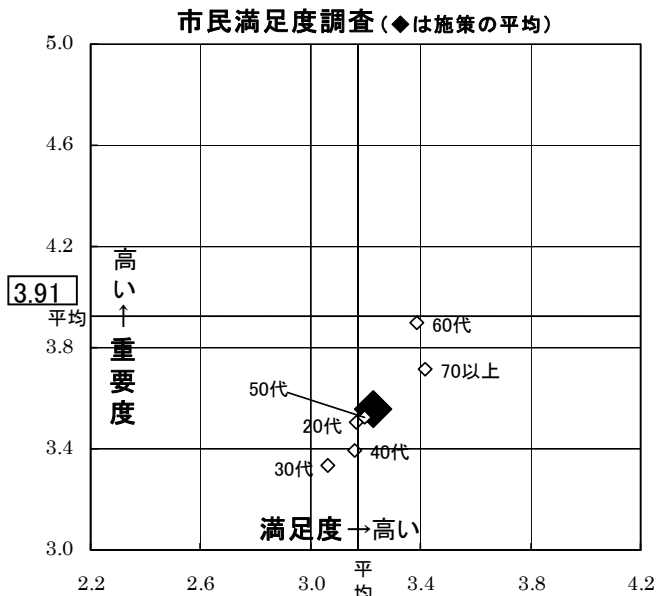
◆この施策の満足度は、3.226で、調査した51施策の中で17番目です。

◆この施策の重要度は、3.559で、調査した51施策の中で44番目です。

◆この施策の改善要望度は、0.236で、調査した51施策の中で45番目です。

◇年齢別にみると、満足度及び重要度ともに60歳代以上で高く、30歳代で最も低くなっています。満足度が高いほど重要度も高くなる傾向がみられます。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)



9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

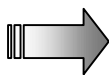
3.17

環境保全型農業の実践結果を見ると、化学合成農薬を使用せずとも良好な効果が出ており、実践農家も増加してきている。しかし、資材コストが高いため、事業の有効性に見合った普及がなされていない。

また、現状市民農園を市街化区域に整備しているが、1区画あたりのコストが高く、区画面積も小規模となっている。コスト、面積等を考慮すると、調整区域に大規模に展開していく手法が考えられるが、利用面積が拡大するとある程度の農業知識が必要となり、園芸サポートも含めた専門的な運営体制の整備が必要となる。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充する
<input type="checkbox"/> 現状維持する
<input type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

市民農園整備については、大規模農園需要を充足させ、かつ未利用農地の有効活用という観点から農業公園整備促進事業とリンクさせた施策を検討していく。また、現状横浜市で成功例が多くある農家開設型市民農園等の整備について検討し、拡充を図る。

環境保全型農業の導入については、農業者への啓発活動を実施していきながら、併せて新資材の導入試験を積極的に行い、より有効な方法を模索していく。

11 2次評価

説明

<input checked="" type="checkbox"/> A	農業特区については、その効用を十分発揮できるような施策を展開していくこと。
<input type="checkbox"/> B	
<input type="checkbox"/> C	

12 外部意見

説明

農業特区の認定を最大限に活かすとともに、市民農園、環境保全型農業の導入など、有効な施策を展開すべきである。

施策名 特色ある都市農業の推進

施策コード 31520

構成事務事業一覧

事務事業名	担当課	評価年度	決算額(千円)	人員(人)	評価の概要								施策中の優先順位	
					総合評価	達成度	必要性	効率性	代替性	満足度	有効性	公平性		今後の進め方
農業公園整備促進事業	農政課	14	8,429	1.00	B	C	A	B	B	B	B	見直し	1	
農業体験学習事業	農政課	15	719	0.05	A	B	A	B			A	A	見直し	6
環境保全型農業導入支援事業	農政課	15	1,233	0.10	AA	A	A	B			A	A	継続	2
特色ある都市農業の推進(さがみはら市民朝市)	農政課	15	2,730	0.25	AA	A	A	A			A	A	見直し	4
相模原市農業まつり補助金	農政課	15	3,201	0.17	A	B	A	A			B	A	見直し	3
レクリエーション農園等整備事業	農政課	15	12,687	0.50	AAA	A	A	A			A	A	見直し	5

合計 6 事務事業 28,999 千円 2.07 人 平成14年度評価:達成度、必要性、効率性、有効性、代替性、満足度 平成15年度評価:達成度、必要性、効率性、有効性、公平性